令和元年１２月１１日

# 東濃社会教育だより No14 Plus
## ― 研修編 ―

恵那県事務所
振興防災課　振興防災係
社会教育担当：長瀬
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL：0573-26-1111 内線 208

## 地域学校協働活動推進員等研修会の後期がスタートしました

県と岐阜大学が共同で運営する「ぎふ地域学校協働活動センター」による後期研修会がスタートしました。

東濃地区からは、市の推薦を受けた公民館関係者、社会教育委員、行政担当者など、12名が受講されました。（県全体の受講者は36名）

廣瀬氏は「地域・地方の急速な衰退」や「社会保障制度の進展」について説明され、そこから生まれる地域課題の解決には、地域の人のつながりが大切であることを指摘されました。また、地域学校協働活動は、学校を核とした地域づくりであり、地域社会の担い手を育成することが必要であると強く語られました。

受講者は、全 4 回の研修を通して、地域学校協働活動推進員として資質や力量をさらに高め、学校と地域の懸け橋として、今後の活躍が期待されます。

研修会交流の様子

日時：１１月１２日（火）
場所：恵那総合庁舎
講師：宇都宮市とちぎ市民共同研究会
　　代表　廣瀬 隆人 氏
演題：地域学校協働活動をどう展開するか

### 【講話より 抜粋】

**□学校を核とした地域づくり**
→子どもや学校教員とともに、地域の大人のつながりづくりや地域の困りごとの解決をするしくみをつくること

**□「まち・ひと・しごと創生総合戦略」**
→地域に誇りを持つ人材の育成を推進し、地域力の強化につなげていくこと
→地域社会の知人や友人を増やす活動

**□地域学校協働活動（具体）では**
→新規事業を開発することではない
→汗かいて、恥かいて、頭かいて、進めること

**□地域と学校の覚悟が必要**
→地域と連携するためには、学校行事を削減することが必要
→既存の学校行事に地域性を刷り込ませること
→学校の行事を地域の団体が担うこと

**□地域学校協働活動のヒントは学校の特別活動**
→地域行事は特別活動につながっていること
→特別活動に地域住民や団体、行事をかかわらせていくこと
→地域行事に児童、生徒をかかわらせることで、特別活動の目標が達成できること

### 【質疑応答：廣瀬氏の回答より 抜粋】

Q:生徒の地域貢献は学校のためだけでない。また、地域の労働力になるのではない。先生が言われるとおり「両方（地域と学校）の覚悟が必要」と感じた。生徒を地域に出す以上、「学校（先生）は、失敗をどこまで受け入れられるか」「地域は、生徒を受け入れた時の責任の重さなどのリスクを、どこまで受け入れられるか」を考えさせられた。（高校コーディネーター）

A:高校生が地域で様々な連携をしているが、無償の労働力の提供ではなく、あくまで、すべての地域連携の体験が教育であることを視野に入れること。また、必ず、振り返りの時間を持つこと。「何をやったのか」「どんな意味があったのか」「これからどう生きていくのか」を考えさせる時間がないと教育ではない。（廣瀬氏）

Q:コーディネーターとして地域の方に声をかけるとき、世代ごとの壁を感じて気を遣うがよい方法はあるか？（コーディネーター）

A:どの人にも同じ笑顔を振りまいていくこと。笑顔でいることがコーディネーターとして一番大切。100%言うことを聞いてくれる人はいない。少しでも言うことを聞いてくれれば幸せだと思うこと。（廣瀬氏）

## 地域学校協働活動に係る研修会

研修会の様子

岐阜県公民館連合会とぎふ地域学校協働活動センターが行う、地域学校協働活動研修会が開催されました。

県内から60名の参加者（東濃地区からは、8名参加）がありました。研修会では、竜王町公民館（滋賀県）と玖波公民館（広島県）から、地域と学校の協働による活動が発表されました。実践発表後には、地域学校協働活動における様々な意見や質問が交流されました。

### 【質疑応答より　抜粋】

Q:中学生との連携が難しくないか？

A:実際難しい。中学生は部活などで忙しく、仲良くなってもすぐに卒業してしまう。校長先生や教頭先生も２～3 年もすれば異動してしまう。諦めずに、アプローチを続けていくことが大切。さらに、子どもを人数合わせで集めるのではなく、企画から一緒にやるなど、中学生も育つようにすると、子どもたちが本当に楽しんでやりたいと思うようになる。その「楽しい」が学校に伝わったり、先輩から後輩につながったりする。子どもたちのことを考えて一緒に進めていけば、校長先生や教頭先生が異動しても協働した活動ができるようになる。継続していれば、公民館の行事に学校が歩み寄ってくれるようになる。今は、学校側からの要望で、地域を学ぶ「地域学習」の事業も行っている。（河内氏）

Q：人材をどのように見つけられたか？

A：園芸の手伝いは募集をして 100 名。授業支援は口コミや公民館講座に参加している人。講座に参加している人は、すでにその講座の技術がある人のため活かしやすい。（関川氏）

日時：１１月 13 日（水）

場所：岐阜県図書館 研修室

### 研修１

「地域の人財を公民館・学校、そして、地域の応援団に」

講師：前滋賀県竜王町公民館長
竜王町地域学校協働本部
統括マネージャー
関川雅之氏

**【活動の特徴と工夫　抜粋】**

・本部を公民館に設置したため、人材確保につながった。（スクールメリット）

・公民館長がパイプ役となり、公民館事業に参加している人を学校ボランティアにつなぐことができた。

・公民館で学校支援につながる講座を開催した。

**【バイタリティのもと】**

・活動することが楽しい。（社会教育は楽しい）

**【大切なこと】**

・自主団体のネットワークとコーディネートが大切。

### 研修２

「公民館の可能性を信じて～学びのカフェ物語」

講師：広島県大竹市
玖波公民館
河内ひとみ氏

**【活動内容】**

・「居心地がよくゆったりできる空間」「自由に語り合うスタイルの活動」「公民館のイメージチェンジ」を心掛けた。

・「学びのカフェ」のスタート
「テディベア着物リメイクで世界に発信」「地理の先生の旅の楽しみ方イースター島のモアイ像の謎」等の新規の講座を次々に開発。

・手作り「見知らんガイド」の完成
（マップでめぐる「玖波グルメ」）

・「くばコレ」まちのあなたがモデルで登場

**【バイタリティのもと】**

・３つの戒めていること「継続が大切」「結果をすぐに求めない」「ブレない」